京都が京都であるために

京都をつなぐ
無形文化遺産

京都市
CITY OF KYOTO

京都をつなぐ無形文化遺産ホームページ　kyo-tsunagu.net　京都をつなぐ　検索

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 Y·J·Kビル2階　☎075-366-1498　平成31年3月発行　京都市印刷物第303278号
制作協力：東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）芸術家×仕事コーディネート事業　イラスト：松平莉奈　制作編集：シラタマブックス　デザイン：原礼子

京都をつなぐ無形文化遺産

京都には数多くの無形文化遺産がありますが、法令上文化財としての指定・登録が困難なものがあります。
そこで、それらの価値を再発見、再認識し、大切に引き継いでいこうという市民的気運を盛り上げるため、
平成25年4月、京都市独自の制度「京都をつなぐ無形文化遺産」制度を創設し、これまでに6件を選定しました。

京の食文化 【 平成25年10月選定 】

大切にしたい心、受け継ぎたい知恵と味

千有余年の永きにわたり都が置かれた歴史を背景に、季節感やおもてなしの心、本物へのこだわりといった精神文化が食文化にも浸透しています。京都における食は、ご飯を主食としつつ、旬の野菜を中心に乾物や大豆加工品、漬物などの副食を上手に組み合わせた、一汁三菜が基本の出汁（だし）をベースにしたもの。家庭の食卓には、家庭のおかず、いわゆる「おばんざい」を中心に、暦や年中行事に合わせた行事食などが並びます。また、五色・五味・五法を五感で愉しむ京料理や料理を出前する独特の仕出し文化を生み出しています。

京・花街の文化 【 平成26年3月選定 】

いまも息づく伝統伎芸とおもてなし

芸妓や舞妓が舞・踊りをはじめとした数々の伝統伎芸により心のこもったおもてなしをする文化が連綿と受け継がれているまち・「花街」。京都には現在、祇園甲部、宮川町、先斗町、上七軒、祇園東の5つの花街があり、歌舞練場、お茶屋、置屋などが集まり、風情あるまちなみを維持しています。芸妓や舞妓は、日々、芸事の習練を積み重ね、彼女らを引き立てる装いは伝統工芸の職人や髪結い師、着付師など、多くのわざに支えられています。また、かつての花街である島原は、太夫文化を伝えるまちとして存在感を示しています。

京の地蔵盆 【 平成26年11月選定 】

地域と世代をつなぐまちの伝統行事

毎年8月中旬から下旬にかけて行われる伝統的な民俗行事である「地蔵盆」。町内安全や子どもの健全育成を願う町内の行事として、時代とともに変化しながら受け継がれ、地域コミュニティの活性化に重要な役割を果たしてきた地蔵盆は、京都をはじめとする近畿地方で盛んに行われています。お地蔵さんを飾り付け、お供えをして祀り、その前で子どもたちが集まり遊ぶスタイルが一般的で、子どもたちにとって夏休みの最後を飾る行事となっています。

京の菓子文化 【 平成29年3月選定 】

季節と暮らしをつなぐ、心の和

京の菓子は、季節の移ろいをことさら大切にする精神性のもとに育まれ、旬の素材を使うだけでなく、意匠で季節を先取りして表現しています。四季折々の美しい情景を映し出した菓子は、季節や年中行事に思いを巡らせるとともに和の文化を楽しむことを思い起こさせ、日々の暮らしの中で単なる食べ物にとどまらない役割を果たしています。菓子のあるところには会話があり、人と人との間に和やかな雰囲気をもたらす。京の菓子文化には、次の季節を待つ楽しみを家族や友人、客人と分かち合い、会話を弾ませる心遣い、おもてなしの精神が受け継がれています。

京のきもの文化

【 平成28年2月選定 】

伝統の継承と新たなきもの文化の創出

京のきもの文化は、平安時代から宮廷を中心とした「みやびの文化」、また茶道・華道といった我が国固有の文化とともに発展しました。「西陣織」や「京友禅」をはじめとする伝統産業は、生産工程の分業が特徴で、高い技術は世界的に認められています。京都では、和の文化の象徴ともいうべき伝統と格式を備えたきものが、維持継承されています。一方で現代的なファッション感覚で気軽にきものを楽しみたいというニーズが高まっています。

京の年中行事

【 平成30年3月選定 】

季節・暮らし・まちを彩る生活文化

年中行事には、お盆など日本の民俗に根差したもの、祭礼に伴うものなどがあり、それぞれにまつわる食べ物やしつらい、しきたりなどを伴いながら、京都の暮らしを彩り、暮らしの中に育まれてきました。日々の暮らしの中で、楽しみや安らぎをもたらしてきた年中行事は、無病息災を祈り、神仏や自然への畏敬の念を深めることを通じて人々の心を豊かにするとともに、家族とのふれあいを深め、さらに、地域コミュニティの活性化、地域経済・ものづくりの継承・発展につながっています。

祇園祭や五山送り火をはじめ、数多くの伝統文化が一年を彩る京のまち。桜の便りと共に賑やかさを増す花街に胸が踊り、お盆を過ぎると地蔵盆に集う子どもたちの歓声に心が弾みます。日々の暮らしの中でも、食卓を彩る旬の食材を使ったおかずや漬物、見るだけでも心が和む季節の和菓子、美しいきもの姿の人々など、至る所でまちに息づく奥深い伝統や暮らしの美学・生き方の哲学を感じることができます。そして、その度に、京都に暮らしているという大きな喜びを感じるとともに、こうした文化を育み、つないでこられた先人たちへの感謝の気持ちが湧き上がってくるのです。
これから先も京都が京都であり続けるため、共々に「京都をつなぐ無形文化遺産」を大切に守り伝えてまいりましょう。

京都市長　門川 大作